

市民活動展で紹介した千葉県の環境保全活動団体の環境学習についてⅣ

小川かほる

1 はじめに

市民団体の環境保全活動の広がりを促進するため2009年度から環境保全活動団体等と連携し、市民活動展を開催している。

2011年度に市原市内を中心に里山保全活動に取り組んでいる10の市民団体を紹介¹⁾したことから、2012年度には、NPO法人ちば里山センター^{注1)}と共催し、対象市民団体を千葉県全域に広げ「ちばの里山を守る森人たち」を開催した(第3章参照)。

また、エコmesse 2012in ちば^{注2)} 出展を契機に、市民活動展の公募要領を作成し、2012年9月からHPに掲載^{注3)}するなど、市民団体からの申込による市民活動展の制度を整えた。「エコmesseちば実行委員会^{注3)}」と「千葉県さくらの会^{注4)}」から応募があり、それぞれ「協力して」と「協力します」をつなぐと「ちばの気候・気象とさくら」を開催することができた(第3章参照)。

本章では、各市民活動展の概要、展示で紹介した市民団体の環境学習および環境保全活動の取組および課題を報告する。

2 ちばの里山を守る森人たち

ちば里山センターの呼びかけに応じた40団体の活動写真と団体情報(連絡先, 目的, 里山の特長, 活動のきっかけ, 活動内容, 課題)をパネルにして展示した。

各団体は、森林整備(間伐・除伐・下草刈り・植林)だけでなく、道整備(遊歩道, 古道, 作業道)や耕作放棄地対策など、その地域の問題解決のために、多様な活動に取り組んでいる。そして、これらの活動体験をとおして、会員の問題解決力が育まれていることが推察される。さらに、40団体のうち29団体が(73%)が、地域の小学生の里山体験や自然観察会、稲作体験など、環境学習の場と機会を提供していることがわかった(表1)。

表1 里山保全活動団体が提供する環境学習取組

| 団体名 | 環境学習取組 |
|-------------------------------|---------------------------------|
| アクション・グリーン | 里山活用イベント, 学校林整備と講習会開催 |
| あさひクスギの里 | 川に竹炭を入れ, 水質調査 |
| いちはら里山クラブ | 自然観察会 |
| 市原トンボ池の会 | 生きもの調査, 自然観察会 |
| NPO 法人市原ネイチャークラブ | 自然体験活動(自然観察会, キャンプ, ネイチャーゲーム等) |
| 市原米沢の森を考える会 | 観桜会 |
| おとずれ山の会 | 安全技術講習会, 自然観察会, 里山体験会 |
| 上古敷谷里山の会 | ホテル観察会 |
| 九十九里海岸の松林を守る会 | 海岸松林の役割等の普及啓発 |
| コスモ石油株式会社千葉製油所 & NPO 法人千葉自然学校 | 地元小学生への環境教育 |
| 桜宮自然公園をつくる会 | 自然観察会, 地元小学生の野外学習・稲作体験, 里山体験会 |
| 里山保全「自然塾」 | エコ農産物の栽培 |
| さんむフォレスト | 現地見学会, 講座開催 |
| NPO 法人市津・ちはら台自然楽校 | 自然観察会, キャンプ, ハイキング(子どもエコクラブの活動) |
| 酒々井里山フォーラム | 動植物調査, 地元小学生の稲作体験 |
| NPO 法人しろい環境塾 | 子どもの環境教育, 市民交流 |
| NPO 法人ちば里山トラスト | 見学会, 調査研究への協力 |
| NPO 法人ちば環境情報センター | 自然観察会, プレーランドプロジェクト, 小学生の稲作体験, |
| ちば千年の森をつくる会 | 生物調査, 自然観察会 |
| ちば・谷津田フォーラム | 自然観察会 |
| 豊富どんぐりの森 | 植生調査, イベント |
| 早船里山の会 | 森林浴, 里山コンサート, 教育の森, 体験学習 |
| NPO バランス21(谷当里山計画) | イベント, 講演・講習会, ワークショップ |
| ふなばしネイチャーゲームの会 | 野外体験活動 |
| ふれあい千葉 | 刈り払い安全講習会 |
| 風呂の前里山保存会 | 自然観察会, 子どもたちの環境学習, 研修会・交流会 |
| 緑の環・協議会 | 子どもの環境教育, 遊び場の提供 |
| 谷当グリーンクラブ | イベント |
| NPO 法人ユース・サポート・センター・友懇塾 | 逮捕・補導された少年と保護者等の体験活動 |

里山保全活動団体の課題に関する自由記述を課題別に整理した（表2）。高齢化も含め、団体の活動をに
なう人材の確保や活動資金が多く団体の課題となっ
ている。

展示終了後も、パネルはちば里山センターにより各
地で展示され、里山保全活動の啓発に貢献できた。団
体によっては、ちば里山センターからパネルを借り、
地域の環境フェアや地域の公民館等で展示を行うな
ど、作成パネルの活用が図られた。

3 “協力して”と“協力します”をつなぐ

「エコメッセ in ちば」は、市民・企業・行政のパー
トナーシップにより環境保全の輪を広げるために³⁾、
千葉県幕張地区で1996年から毎年開催されている千
葉県内最大級の環境イベントである。出展団体間の交
流も目的の一つであるが、これまでは出展者説明会
のときにわずかに交流の時間を設けるぐらいであっ
た。イベント当日は、各出展団体とも来場者対応で忙しく、
出展団体間の交流ははかどらず、団体間のネットワ
ークを構築するまでには至っていなかった。

そこで、エコメッセちば実行委員会が、2012年から
「エコメッセ協働創造市」という名称のもと、メー
リングリストやイベント当日とは別に交流会を開催し、
団体の連携協働の取組を促すことになった。

当センターも「エコメッセ協働創造市」に参加し、
「市民活動展公募事業」をマッチング案件として提案
した。その結果、「エコメッセ in ちば実行委員会」と
の連携が整い、マッチング事業として本展示を実施す
ることができた。

そして、エコメッセ協働創造市参加団体に本展示へ
の参加を呼び掛けた。11の市民団体（表3）と行政機
関である千葉県生物多様性センターの参加をえて、当
環境研究センターの紹介パネルを含めて展示した。

持続可能な社会づくりのためには、社会を構成する
全ての主体が、それぞれの特性に応じ、適切な役割を
果たすことが重要であるが、さらに異なる主体が、そ
れぞれのリソース（資源）を持ち寄り協力して共に働
くことで、相乗効果が期待できる。本展示は、この連
携・協働の価値を、多様な主体が参加する展示とい
う形で示すことを目的として開催したものである。

表2 里山保全活動団体の課題

| 課題 | 割合(%) |
|--|-------|
| 人材確保・会員増・会員減少 | 52.5 |
| 活動資金 | 30 |
| 会員の高齢化・後継者 | 20 |
| 技術力・管理能力 | 12.5 |
| 啓発・活動への理解・広報 | 7.5 |
| イノシシ・ニホンジカ被害 | 7.5 |
| 活動の持続性 | 5 |
| 地域との交流・協働 | 5 |
| その他の課題: 移動手段(バス)/活動場所の確保/装備 の充実/耕作放棄地/木材の活用方法/他団体との連携 協働/計画作成/放射能汚染の風評/道の整備/自立の ための組織作り/生きものの豊かな雑木林づくり/次の 世代に環境のよい森を残すこと | |

展示期間中に、参加団体会員による展示解説と参加
団体間の交流会が開催された。パネルには、団体名、
連絡先、活動目的、活動内容の他、「こんなことがで
きます」「こんなことができたらいいな(夢)」「協
力してほしい」「市民への情報提供・メッセージ」を
記載した。

参加団体は環境保全活動に取り組んでいることは共
通であるが、その目的や手段は多様であった。各団体
の「協力してほしい」内容は、ほとんどが自らの活動
への協力者や主催事業の参加者の募集であったことか
ら、今回の市民活動展を通じてのマッチングは成立し
なかった。事業マッチングのためには、お互いの団体
の特長を理解したうえで、協働によって初めて実行で
きる、より高次の環境保全活動を創造することが重要
であることが今回の取組からいえよう。

4 ちばの気候・気象とさくら

さくらの開花の時期は、気象庁の長年の観測結果か
ら、春先の気温の変化にともない早まってきている。
この原因として、地球温暖化やヒートアイランド現象
が考えられている。

千葉県さくらの会^{注4)}からの市民活動展の応募があ
り、千葉県さくらの会が有する県内の桜の名所情報⁴⁾
に、当センターがこれまで実施してきたヒートアイラ
ンド現象の研究結果を組み合わせて展示した。桜の名
所情報には多くの人が関心を示し、桜の開花が早まっ

表3 「“協力して”と“協力します”」出展団体

| 出展団体名 | 活動内容 |
|--|---|
| いぬみ郷 | いぬみの地(千葉市幕張町)に隣接する農地で無農薬栽培の野菜づくり。 |
| 環境パートナーシップちば | 市民・企業・行政の協働を図る県内環境保全活動団体ネットワーク。 |
| NPO 法人コミュニティひまわり | 廃食用油の回収リサイクル。 |
| 自然エネルギー千葉の会 | 再生可能エネルギーによる発電事業。省エネ、再エネの普及広報啓発。 |
| NPO 法人シビルまちづくりステーション | 園庭、校庭の芝生化を推進。 |
| NPO 法人太陽光発電所ネットワーク 千葉地域交流会 | 太陽光発電をはじめとする自然エネルギー(再生可能エネルギー)と省エネの普及啓発活動による環境の保全。 |
| 千葉工業大学 CIT “ものづくり”学内 未利用資源発掘プロジェクト” | 学内で放置される自転車や PC について再生し、必要な人に貸し出す事業。ペットボトルや生ごみ、廃油などの、エネルギー化プラントの開発。 |
| 有限会社 ナチュラルシードネットワ ーク | 有機農産物の生産者育成と商品の流通。 |
| 有限会社 ヤマ吉 | 食料とエネルギーの自給で持続可能な社会の追求・水資源の有効活用。 |
| 横浜金属商事株式会社 | 貴金属の精錬リサイクル及び環境コンサルティング。 |
| 若葉GONET | 地域での「ごみ減量啓発活動」を主流として、気づきや思いを1人からでも出来る活動として拡げて繋ぐ。 |

ていることもよく知られるようになっていく。この企画展を通して、桜の開花をはじめとする身近な自然の変化に関心を持ち、その原因として気候・気象の変化に気づき、ひいては地球温暖化やヒートアイランド現象を理解してもらうことを目指した。

これまで開催してきた市民活動展は、市民団体の活動を紹介する展示会であったが、今回初めて、市民団体の情報と当センターの研究成果を組み合わせることにより、地球温暖化およびヒートアイランド現象の啓発事業を実施することができた。

謝辞

NPO 法人ちば里山センター、エコメッセ in ちば実行委員会、千葉県さくらの会の皆さまに謝意を表します。

注

- 1) NPO法人ちば里山センター：2004年に千葉県里山条例の成立を機に設立された2011年千葉県里山条例の改定に伴い、企業、団体に門戸を広げ、特定非営利活動法人として、県内の里山保全活動を推進している団体。
- 2) エコメッセ 2012in ちば：2012年9月17日、幕張メッセ国際会議場にて開催。出展団体 140、来場者 14000人。
- 3) エコメッセちば実行委員会：1996年から、市民・企業・行政の三者が参加し、千葉県内で「環境活動見

本市・エコメッセ in ちば」を開催する組織。2012年からは、企業や市民団体、行政など団体同士の連携・協働による取組を推進するための「エコメッセ協働創造市」にも取り組む。

- 2) 千葉県さくらの会：さくらの多様な品種の保存普及、さくらの名所づくりなどを目的に昭和51年に設立。

引用文献

- 1) 小川かほる：市民活動展で紹介した千葉県の環境保全活動団体の環境学習についてⅢ - 市民活動展「市原の里山・緑を守る森人たち -」, 千葉県環境研究センター年報, 平成23年度,
<http://www.pref.chiba.lg.jp/wit/nenpou/documents/ar2011kikaku002.pdf> (2013年9月1日参照)
- 2) 市民活動展の共催団体募集：
<http://www.pref.chiba.lg.jp/wit/boshuu/shiminkatsudouten.html> (2013年9月1日参照)
- 3) 小川かほる：環境教育と市民参加ー「エコメッセ in ちば」開催と「千葉県環境学習基本方針」策定経過から考えるー, 千葉県環境研究センター年報第7号, 227-233. (2007年度)
- 4) 千葉県さくらの会：市町村が薦めるさくらの名所 (2012)
<http://www.c-green.or.jp/sakura-meisyo.html> (2013年9月1日参照)